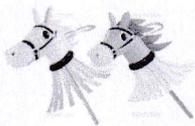


一月三日
今年も春
駒出勤し
ます



日退教和歌山新聞

日本退職教職員協議会和歌山
日退教和歌山
640-8114 和歌山市船場町16
日教組和歌山 内
TEL 073-436-6820

11月28日 秋のバスツアー

(事務局より)

恒例の秋のバスツアーを実施しました。今回は「滋賀県の琵琶湖周辺で、メタセコイア並木と明智光秀ゆかりの地、阪本の街の散策」です。今回のツアーには、24人が参加してくれました。一週間前までは30人の予定でしたが、急きよ体調不良や用事などにより6人が不参加になり、残念です。

和歌山駅東口を8時に出発、京都までは高速道路を、滋賀県に入り湖西道を走りました。当日は曇り時々小雨と少し曇鬱な天気になりましたが、11時半頃に安曇川グリルに到着し、昼食。昼食のハンバーグは割り箸がしなるくらいでしたが、みなさん値段の割には少し満足できていない感じでした。13時頃にめざすメタセコイア並木に到着し散策。約500本の並木はみごとなもので、みなさん思い思いに写真を撮り、堪能していただきました。

その後、次の見学地、阪本の街散策ということでしたが、時間の関係で明智光秀と関係の深い『西教寺』の広い境内を見学しただけになり、境内の紅葉もみごとでした。阪本の街散策とは行きませんでした。帰路の時間もありバスで後にし、途中で京都のお土産を買って帰路につきました。

和歌山には8時頃着きました。みなさん、おつかれさまです。また、次回

「春のツアー」への参加をお待ちしています。



秋季バスツアーの感想

辻中美智子

初参加バスツアーは『メタセコイア並木と坂本散策の旅』でした。

朝の集合・出発から笑い声が絶えず、楽しく始まった旅は近畿・第二京阪・名神と思いのほか長距離になるドライブでした。

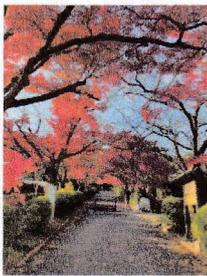
途中、道の駅「藤樹の郷あどがわ」にある安曇川グリルでハンバーグを食したおりにこの地より参加された方も加え、口の字に卓を囲みました。和やかな雰囲気のおかげで、バスでは拝見できていなかった懐かしい先輩方々とお顔を合わせることができて嬉しかったです。

道中の車内では、恒例のようでしたが、自己紹介のマイクが回され、近況報告などが披露されました。穏やかな日々や大病を乗り越えられたご苦労、またアクティブな一週間の生活など、趣味を楽しみ健康維持に努めておられる前向きな暮らしのお話に刺激をいただきました。

楽しみにしていたメタセコイア並木は、2、4キロメートルにわたり約五百本が植えられているそうですが、冷たい強風と少し降られた雨に、並木道を歩いてみようという思いは断念しました。紅葉には少し早かったようでしたが、雄大な景色は思い出のひとつになりました。

その後、比叡山延暦寺の門前町坂本に向かいました。途中雨が降ったり晴れたりと気忙しかったのですが、ガイドさんが「私は晴れ女」としきりにPRされたかいがあり、下車する頃はやんでいました。

駐車場から西教寺までの登り坂は高齢者団体には大変厳しいものですが、境内の紅葉はとも美しく感激でした。ゆっくり見学し疲れたので、バスを門前に呼んで帰路につきました。他の寺院や石垣は、いつかの楽しみに残しておきます。



お行儀のよい一行は予定通りの時刻に和歌山に帰ってきました。

久々にお会いできた先輩方や元同僚などの元気なお姿から暖かいものをいただきました。これからの日々も健やかにすごそうと励ましあうように、各残惜しくもお別れました。

催行にあたりご尽力いただいた日退教和歌山の役員さまに感謝申し上げます。お時間を割いて御参加くださったみなさまありがとうございます。次回を今から楽しみにしています。

退職者連合近畿ブロックのハイキングに参加して

10月19日 退連近プロハイキングに参加しました。今年開催地は和歌山県で高野山をハイキングしました。日退教和歌山からは7人が参加しました。

近プロ(2府4県)から870人が参加し、自治労、NNT、JR、全日通など連合傘下の退職者らとバス3台で高野山大学の講堂に集まりました。80歳を超えている人たちの元気な姿に驚かされました。出発式が行われ、主催者、来賓の挨拶と続き、92歳の方が表彰されました。

その後、昼食を取り、参加者各自が思い思いのハイキングに出発です。私たちは、徳川家の菩提寺を見に行き、そして一の橋から奥の院まで2キロの神秘的な石畳の道を歩くことに、一の橋から奥の院までの間に歴史上の人物や企業の慰霊碑、個人の墓と苔にむされた約2万基の墓を見ながらの散策です。奥の院では、静寂のなかお参りしてまいりました。

今日一日、秋を感じる風景を見ながらの散策。今年は気温が下がらないので紅葉もまだまだ赤くなっていない所が多く、秋の晴天に恵まれ少し疲れましたが気持ちの良いハイキングになりました。来年度は、滋賀県が開催地です。皆さまも一度参加してみませんか。秋の自然を感じる散策ができると思います。ぜひ参加をお待ちしています。

(事務局より)



「地球上からミツバチが消えたら人類は4年間で滅亡するだろう。」とアインシュタインが警告した未来に私たちは生きている。

日退教和歌山新聞

日本退職教職員協議会和歌山
日退教和歌山
640-8114 和歌山市船場町16
日教組和歌山内
TEL 073-436-6820

ミツバチシリーズ5

ミツバチの生態(その3) 大山 隆生

女王バチが産んだメスの働きバチの卵は、約1週間成虫になります。
成虫になってすぐに仕事に就きます。1、2日目には巢内の空き部屋と周辺のお掃除係です。3日目から育児係として、貯蔵している花粉を材料にしてミルク様の餌をつくり、口移しで幼虫に与えます。
7日目からは建築係として、腹部にある「蟻腺」から蜜蝋を分泌して「巢板」に六角形のハニカム構造の部屋を増築していきます。物差しを持たないハチがどうして直径4、6mmの同じ規格の部屋を作ることができるのか謎でしたが、どうやら触角を物差しとして使っていることが解りました。

通常女王バチは1日に数百個の卵を産みますが、若い健康な女王バチは約1000個の卵を産むことができます。これは自分の体重とほぼ同じ位の重さですから、その産卵能力は驚異的です。卵は1室に1個産みます。1日に数百匹羽化しますから、群を大きくしていくためには羽化した後の空き部屋を再活用するとしても、建築係はさらなる増築が必要になるわけです。

10日目からは貯蜜係として、採蜜係の持ち帰った花の蜜を口移しで受け取り、「巢板」の上部の貯蜜部屋に貯蔵します。採蜜係の集めてきた蜜を直接部屋に貯蔵するのではなく、貯蜜係の内臓を通して特殊な酵素と合わせて、腐敗しにくく保存のきく蜜にして貯蔵するのです。さらに、貯めた蜜に羽ばたきで風を送り、水分をとばして、より濃厚で糖度の高い蜜にして最後に蜜蝋で蓋をして越冬に備えます。

20日目位からいよいよ採蜜に出かけますが、この少し前から巢の近くで飛行訓練が行われます。これを「ときざわぎ」といい、近くにいると羽音がかなり騒がしく聞こえます。どのハチが指導教官なのか学生なのか、じっと観察しても見分けがつかません。日本ミツバチの活動範囲は半径約2kmです。毎朝太陽の光を浴びることでGPS機能を発揮し現在位置をリセットしています。曇天の日でも「偏光」という特殊な光を感じて、太陽の位置を把握する能力を持っていますから帰巢に支障はありません。

採蜜係は蜜や花粉を持ち帰りますが、その一部には蜜源を探して採蜜係にその情報を伝達する探索係もいます。よい蜜源を発見した探索係は巢に戻り、巢板の上を歩いて方角と距離を教えます。この時、数匹の探索係がそろそろと後について歩き、情報を学習します。これは分蜂時の転居先探索係と同じ伝達方法です。

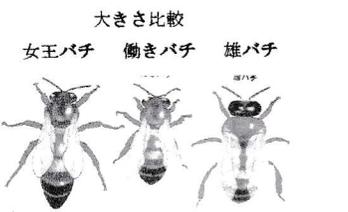
ミツバチが採蜜して帰巢するのは、人類が月の石を採取して帰還するのと同じくらいのリスクを伴うものといわれています。従って、採蜜係は若いハチを危険にさらさないため、余命の短い中高年のハチが担当します。群の存続のためにはやむを得ないことなのでしょう。

さて、生まれてから掃除係・育児係・建築係・貯蜜係・採蜜係(蜜源探索係)と、一生の役割分担を紹介しましたが、これはメスの働きバチの事です。
この他にも、巢の出入り口で警備を担当する係や、巢の中で死んだハチを巣から離れた場所に捨てに行く葬儀係もいます。

分蜂時に生まれるオスバチは毒針を持っていませんから、巣を外敵から守ることもできず、ただ子孫を残すための交尾だけが役割です。前回紹介したようにオスバチは一度の交尾で命を落とします。それは、交尾時にオスの生殖器が女王バチの体内に取り込まれてしまうためです。生き残ったオスバチは交尾の機会を得るため、他の群のハネムーンに出かけた新女王バチを探しに出かけますが、その機会が得られないと巣に戻ってきます。採蜜のできないオスバチはメスバチにおねだりして餌をもらいますが、ただ飯食らいの居候はやがて疎まれ、巣から追い出されてしまうものも出てきます。自然界で群として存続していくための厳しい摂理といえます。

最後に「女王バチ」と聞くと一つの群の頂点に君臨し、他の何千・何万匹もの働きバチを統率しているような印象を受けるかも知れません。確かに数匹のメスの働きバチの側近によって、食事の世話や、排せつ物の処理、さらに清体(身体をなめてきれいにする)等で世話にはなりますが、すべては「産卵」という群れの存続にかかわる最重要任務に専念できるようにするために、こうしてみると女王バチも産卵という役割を担った一構成員にすぎないというこのようになります。

一匹の女王バチとオス・メスの働きバチが年齢に応じた徹底した分業社会を築き、合議制による民主的な社会を営んでいるのです。群れの存続のためそれぞれが自己の役割を全うし一生を終えるのです。お見事というほかありません。
これで「日本ミツバチシリーズ」は一回終了とさせていただきます。長らく有難うございました。



「訂正」
前号ミツバチの生態(2) 15・16行目(誤)「羽が小さく飛ぶことができない女王バチは」
(正) 飛ぶことが苦手な女王バチは

「あまり紙面を独占してもいいことではない」と断念して頂きました。また登場して頂きます。編集部」

これからの和退連からの行事の案内

- 囲碁・将棋大会
 - 日時 2月16日(金) 9:30から
 - 場所 フラザホープ
- グランドゴルフ大会
 - 日時 3月7日(木) 9:30から
 - 場所 和歌山市東公園野球場
- 熊野古道道普請
 - 3月19日(火) バスで8時頃出発予定
 - 場所 田辺市本宮(熊野古道)

参加を希望される方は、事務局まで連絡してください。
TEL, FAX, メールで連絡先は封筒の表に書いています。